



学校教育・秋田方言研究

なか
中

やま
山

たけし
健

(87歳)

住所

秋田市

秋田県内の小・中・高校の教員として33年間児童生徒の教育に励むとともに、国語教育のレベルの向上と国語学研究に献身的に努めた。その成果は、昭和27年刊「新訳真澄翁男鹿遊覧記」、昭和32年刊「秋田方言の実態に立つ発音指導の方法と技術」の刊行や発表によって顕著に表されている。

昭和43年からは角館南高校、能代北高校、本荘高校の学校長を歴任し、学校経営に手腕を発揮するとともに、昭和48年から51年までの間は、秋田県高等学校教育研究会国語部会の会長を務め、県内国語教育の向上に貢献した。

また、昭和54年から平成元年までは「秋田県議会史編纂員」を務めた。

さらに、平成13年には、長きにわたって調査研究を重ねた秋田の方言を「語源探究秋田方言事典」として刊行し、秋田の方言研究の発展と国語教育の向上に寄与した功績は多大である。



民謡の普及・発展

ふじ まる てい そう
藤 丸 貞 藏

(80歳)

住所

秋田市

昭和39年から6年間NHK秋田放送専属伴奏者（尺八）となったことをきっかけに、民謡のプロとしての道を歩みだし、昭和41年に秋田民舞団「五星会」を設立して代表者となり、全国を興業するとともに、昭和45年からはABS秋田テレビの専属伴奏者を4年間務めた。

昭和50年「民謡教室秋田藤丸会」を結成し、秋田市内を始め、関東地域に教室を開設して民謡・尺八の普及指導に努めるとともに、諸外国でも公演して日本の民謡文化を紹介し国際親善も深めてきた。

また、先人が育んできた秋田民謡の発掘・継承に努め、口伝えに引き継がれてきた数々の民謡を楽譜として整理・保存するとともに、新作民謡にも取り組んでいる他、平成4年から3年9ヵ月の間、秋田大学の非常勤講師として秋田民謡の指導を行うなど、次世代への伝承に尽力している。

さらに、平成12年には財団法人日本民謡協会から最高位の名人位を授章され、現在も現役で活躍し、民謡の普及・発展に貢献している。



舞踊の普及・発展

こう さか み え
高 坂 美 枝

(74歳)

住所

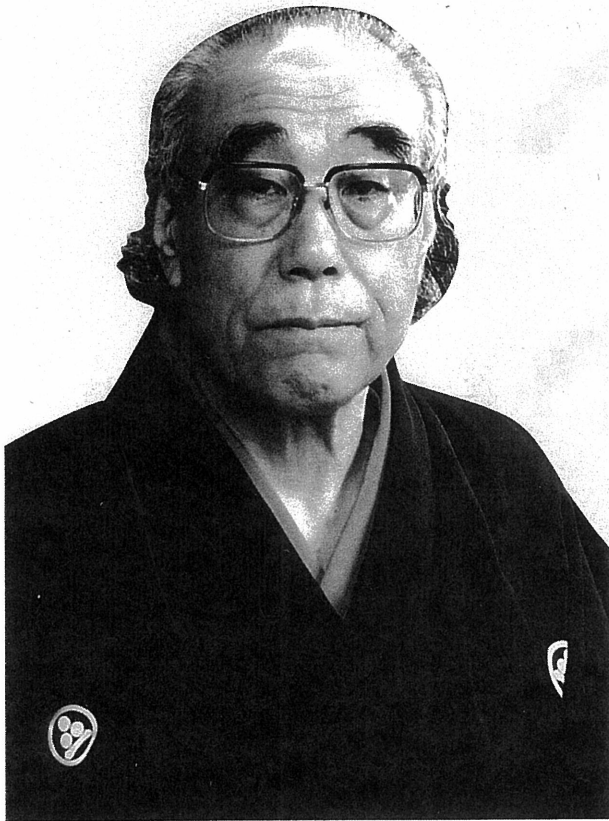
大曲市

昭和21年に日舞を始めて以来、芸に精進を重ね、作品の巧みな解釈と円熟した表現力により独自の境地を開いた。

昭和29年に、一門で大曲市、横手市に藤扇会を結成し主宰した。以後、昭和38年に湯沢市、昭和59年に角館町に支部を創立し、多くの門下生の指導育成に当たり、日舞の普及・発展に貢献している。

昭和52年には沖縄舞踊にも取り組み、芸風を広げ、昭和53年には、邦舞公演「清元喜撰」により、県芸術選奨を受賞した。

また、藤間流の普及指導のみならず、平成5年には湯沢市からの依頼により「山田ふるさと音頭」の振付・指導、平成7年には文化庁主催移動芸術祭秋田公演において長唄「紅葉笠」の振付をして高い評価を得るなど、各地の盆踊り等の振付や指導普及にも大きく貢献している。



能楽の普及・発展

わたな べ とよ じ
渡 邊 豊 治

(74歳)

住所

秋田市

昭和38年に能楽喜多流に入門し、後進の指導と本県の能楽振興に尽力している。

特に、昭和57年、秋田県演能推進委員会を設立し、事務局長として毎年定期演能大会を開催した。その実績を土台に独立能楽堂建設運動を展開し、協和町の理解を得て、平成2年に「唐松能楽殿」が創建されて以来、毎年2回同町の主催による定期演能が開催されている。

また、能楽後継者難の現状に鑑み、平成9年から秋田市内の中学校でも能楽の授業を行うなど、広く能楽の普及・発展に貢献している。

加えて、これらの能楽運動による本県の能公演確立成功を記念し、平成13年に、協和町の「唐松能楽殿」の一角に「佐竹入部400年記念、石川泉翁顕彰」を兼ねた記念碑の建立に漕ぎ着けた。

さらに、平成4年には「秋田県能楽謡曲史」を執筆するなど、本県の能楽振興に寄与した功績は多大である。



酒造業の振興・発展

い とう ゆう た ろう
伊 藤 雄 太 郎

(70歳)

住所
湯沢市

酒造会社の経営に精励する傍ら、昭和53年から平成14年まで秋田県酒造組合理事、副会長、会長を歴任し、秋田県清酒業界の指導者として業界発展のための指導育成に当たった。

平成3年には、秋田県産酒米と秋田流・花酵母を使用し、かつ厳選した純米吟醸酒「秋田旬吟醸」を発売し、「美酒王国」「米の秋田は酒のくに」として秋田の酒のイメージを全国的に高めることになった。

その後、県と一体になって秋田県産酒米「秋田酒こまち」の開発に尽力し、この酒米を使用した醸造酒を秋田県酒造業発展の願いを込めて今年から本格発売するなど、秋田県酒造業界の振興・発展に寄与した功績は多大である。

また、秋田朝日放送株式会社代表取締役社長、秋田県・ハンガリー友好協会会長に就任し、報道・放送、国際交流の発展に尽力しているほか、湯沢市商工会議所、秋田経済同友会の発展にも尽力している。



バス事業の振興・発展

わたな べ やす ひこ
渡 邊 靖 彦

(64歳)

住所

南秋田郡五城目町

昭和41年にバス会社に入社して以来、自家用車の増加による利用者の減少や路線競争が大きな課題となっていたが、平成12年に秋田市交通局路線の同社への段階的移管について協定を締結し、公共性の高い定期路線バスの運行確保に尽力している。

高速バス事業でも、将来の都市間バス輸送の必要性を予測し、秋田・東京間、秋田・仙台間、秋田・湯沢間で高速バス運行を開始するなど、秋田県の高速度交通体系の推進に大きく貢献している。

観光バス事業では、男鹿半島を周遊する定期観光バスや海上遊覧船の運行など、男鹿半島の観光開発に積極的に取り組むとともに、秋田の文化的小正月行事を中心とした冬季観光を強力に推進したほか、秋田市の「ぐるり市内観光バス」事業に参加し、都市観光の充実に努めている。

また、秋田商工会議所の執行機関の中枢にあって、地域商工業の振興発展に大きく貢献しているほか、社団法人秋田県観光連盟会長、アトリオン室内オーケストラ協会会長を務めるなど、産業界のみならず、多方面にわたる活動は、秋田県の文化振興に大きく寄与している。



漆工芸の振興・発展

くつ ざわ のり お
沓 澤 則 雄

(62歳)

住所

雄勝郡稲川町

漆工芸技法を独学で研鑽し、漆芸作品を制作・発表している。

主に日展で活動しており、平成6年には県内在住作家として初の特選を受賞し、平成10年には2度目を受賞するなど高い評価を得ている。

平成13年に開催されたワールドゲームズ秋田大会において、公式競技のメダルデザインの制作を担当したことは、県民の記憶に新しい。

現在、工芸団体「現代工芸美術協会東北会」会長の要職にあり、地域のリーダーとして若手の指導育成、業界の発展に貢献している。